

美を競う 華麗で過酷な道のりの中で学んだ 本当の美しさとは

櫻井麻美×金ヶ江悦子×村上麻衣

櫻井 麻美 (2006年度ミス・インターナショナル日本代表、同世界大会第4位)

金ヶ江悦子 (2010年度ミス・インターナショナル日本代表、同世界大会第4位、ミスエレガント(特別賞)受賞)

村上 麻衣 (2015年ミス・ユニバース神奈川県準グランプリ、2017年度ミス・インターナショナル準グランプリ受賞)

聞き手・中原悦夫(常任理事・編集委員長)

●日時:2017年7月21日(金) ●場所:クリニーク デュボワ



そもそもなぜミスコンに挑戦することになったのでしょうか？

中原 每回この特集では、歯科という枠にとらわれず、学術、文壇、エンターテインメント、政界などいろいろな分野で活躍されている方をお招きして、楽しく深い話をうかがってきました。今回は、「美を奏でる」をテーマに、まさに、美を追求する3の方に集まつていただき、私たちの知らない世界の舞台裏の話をうかがいたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

一同 よろしくお願ひします。

中原 今回、お招きした3人は、いずれもミス・インターナショナルなどで活躍された方々です。私から軽く紹介させていただきますと、まず、2006年のミス・インターナショナル日本代表で、世界大会でも4位になられた櫻井麻美さん、そして、2010年のミス・インターナショナル日本代表で、やはり世界大会で4位になられた金ヶ江悦子さん。金ヶ江さんは今、ミス・インターナショナル世界大会を主宰する一般社団法人国際文化協会の理事もされています。そして、今年2017年度のミス・インターナショナルで準ミスになられた村上麻衣さんです。

金ヶ江 なぜこの3人だったのでしょうか。

中原 それは追々わかると思います。まずは、プロフィール代わりに、「そもそもなぜミスコンを目指したのか」というところからおうかがいします。目指したきっかけや、ミスに輝くまでの道のりの中で苦労したこと、あるいは挑戦してよかった点など、簡単で結構ですので、一人ずつお願ひします。

櫻井 私がミス・インターナショナルに応募したのは大学4年生のときで、そのころすでにモデルの仕事をしていたのですが、ミスコンテストにはまったく縁のない立場でした。大学で勉強していたのも映像制作でしたし、将来は映像作家になるつもりで、業界への登竜門と言わわれているアメリカの大学に留学しようと考えていたんです。

中原 摄られる側ではなく撮る側を目指していましたね。櫻井 そうなんです。ところが、大学の卒業を控えていた時期に、所属していたモデル事務所から「ミス・インターナショナルに出てみないか」と勧められたんですね。そのとき、私には思ってもみないことだったので、「そういう選択もあるんだ」と新鮮な驚きがあって興味をひかれたのと、大学を卒業したらモデルの仕事も辞めて海外に行ってしまうので、何か一つ足跡を残してから次の世界に旅立ちたいと思って、応募したのがきっかけです。

櫻井「何か一つ足跡を残してから次の世界に旅立ちたいと思って応募したのがきっかけ」

中原 モデルをされていたということですが、モデルも美しさを求める仕事ですよね。ミスコンと何が違いますか。

櫻井 モデルの場合、自分をアピールするのではなく、あくまで商品を魅せるのが仕事です。そこには自己主張や自己表現はなく、商品の美しさ、商品の素晴らしいをいかに強調できるかが求められます。それに対してミスコンは、魅せるのは自分自身しかないという世界です。

中原 商品が主役で、モデルはわき役なんですね。

櫻井 ですから、モデルに自己主張は必要なくて、自分は無でいいんです。逆にそうでないと、商品コンセプトや宣伝の狙いからずれてしまいます。その点、ミスコンは表現するものは唯一自分しかありません。誰も何も指示してくれないので、自分というものをしっかりと持って、表現できていないと評価されないんです。

中原 なるほど、自分で「自分の価値はこれだ」というのをしっかりと見極めて、アピールしないといけないのがミスコンだと、わかりました。金ヶ江さんは、どういうきっかけですか。

金ヶ江 話せば長くなるのですが(笑)。

中原 どうぞ、長くなつてもいいですよ。

金ヶ江 いえいえ、きりがないので短くまとめますと、も



櫻井麻美 (さくらい まみ)

千葉県出身

大学在学中に2006年度ミス・インターナショナル日本代表、世界大会第4位。月経不順と月経痛を骨盤ストレッチによって改善した経験から「多くの同じ悩みを持つ女性に伝えたい」と運動療法を学び、骨盤のポジションや骨盤周囲の筋力バランスを整えることで健康美を叶えるボディワークを提唱。また自身のダイエット経験から野菜と果物の栄養を丸ごと摂れるスマージーライフを提案し、美容や健康の各種悩みに応じたレシピを考案。身体の内側から外側からのアプローチで美しくなる講座を開催中。著書に「櫻井麻美の美脚術」(主婦の友社)、「櫻井麻美の美脚スマージー」(主婦の友社)。

金ヶ江悦子（かながえ えつこ）

大阪府出身

2010年度ミス・インターナショナル日本代表。世界大会第4位、特別賞として“世界で最もエレガントな人”に贈られるミスエレガント賞を受賞。世界大会帰国後、一般企業で社会経験を積み、自身の経験を活かして立ち居振る舞いや話し方などの研修事業を手掛ける。2017年（株）Radianceを設立。人々が心豊かに自分らしく輝く社会を目指し、「美」×「教育」を掛け合わせたカリキュラムで、セミナーや企業研修を全国で行っている。一人一人の個性を大切に、メンタル・言葉・立ち居振る舞い・ファッション・メイク・健康など多角的にアプローチし、外面と内面を両立させて“人間力”を磨く人材育成に力をいれている。またMCやラジオパーソナリティとしても活動中。著書に「いるだけでなぜか視線を集める人の美しい所作のルール」（PHP研究所）、「世界の美女だけが知っている本物の綺麗を手に入れる方法」（PHP研究所）。



ともと女優として活動をしていたのですが、当時所属していたプロダクションから「ミスコンテストに出てみないか」と誘われたのが直接のきっかけです。

中原 やはり他薦なんですね。

金ヶ江 でも、はじめは「ミスコンは女性の戦いのイメージ。私はそういうのは苦手です」と興味が持てずにいました。

中原 最初は乗り気じゃなかったんですか。

金ヶ江 はい、まったく。ですが、会社の意向として出てほしいということで説得されて、結局、出場することになったんです。でも、出るからには1位を目指したいじゃないですか。きっかけは嫌々だったけれど、やるとなったらトレーニングに本気で打ち込みました。すると、自分でもだんだんその気になってきて、「私は優勝できる!!」みたいな、根拠はないんですけど自信過剰のままステージに立ちました。そうしたら案の定、落選で(苦笑)。

中原 最初の挑戦はだめだったんですね。

金ヶ江 だめでした。自分でもできる限りの努力をし、やることはすべてやったつもりで、これだけやったんだから優勝できるだろうと内心では思っていたので(笑)、悔しくて悔しくて。その後も引き続き芸能活動はしていたのですが、ずっとミスコンでの挫折を引きずってしまったんです。

金ヶ江「最初の挑戦では落選。挫折を味わって自分を見失い、人生に迷った末に再起をかけて二度目のチャレンジ」

村上 よくわかります。

金ヶ江 麻衣ちゃんは、見事準ミスだったけど、優勝まであと一歩だったもんね。悔しいよね。

村上 そうなんです、すごく悔しくて、いままさに引きずっている最中ですよ。

金ヶ江 でも大丈夫、その悔しさが必ず糧になるから。

中原 金ヶ江さんも1回目は挫折したけど、切り替えて2

回目で栄冠を取ったわけですからね。

金ヶ江 だけど、そんなに簡単に切り替えられたわけではなくて、実はかなり大変でした。そのころちょうど私は、大阪から上京して全国区で頑張ろうと思っていたところで、ミスコンをばねにしようと考えていたのが落選してしまい、そんな目論見も露と消えたわけです。すると歯車が狂ったように、会社にも居場所がなくなり、オーディションもことごとく落ちるし、何もかもうまくいかない。「君みたいな中途半端な子よくいるんだよね」など、いろいろなことを言われ過ぎて、自信もなくして、どうしていいかわからなくなってしまった時期がありました。

中原 そこからどうやって持ち直したんですか。

金ヶ江 悪いときは何をやってもダメで、もうこういうときは初心に戻ろうと考えて、農業をはじめました。郊外に土地を借りて、「ファーム悦子」って自分で看板つけて、長靴を履いて、ジャージを着て、鍬で土を耕して、種を植えて、水をやって、雑草を抜いてと、一から野菜を育てました。

櫻井 そんなことしてたなんて知らなかった！

中原 結構本格的にやっていたんですね。

金ヶ江 そうして半年くらいたったときに、自分はいったい何をしているのだろうと、ふと疑問に思ったんですね。農業を仕事にしたいわけではなく、芸能業をしているのに野菜ばかり育てているわけです。このままじゃ駄目だなと思ったときに、ふと、自分の育てた大根が目に入りました。その大根がすごく立派に育って、葉っぱも瑞々しくて、そこに蝶々とかテントウ虫が寄ってくる、そのさまに感動したんです。「一から育てた大根が、こんなに命を輝かせている」って。ところが、さらにその大根の横をふと見ると、別の大根があったのですが、それは真逆で、葉っぱは半分枯れていて、実も腐りかけて、嫌なニオイがする。同じ畑で同じように育てたのに、なぜこんなに違うんだろうと考えたんです。

中原 不思議ですよね。

金ヶ江 一方は見た目がきれい、中身も新鮮でおいしい、

村上麻衣 (むらかみまい)

神奈川県出身

法律事務所の秘書として働いていたOL時代、2015年にミス・ユニバースに参加。神奈川県準グランプリ受賞。同年、Miss Tourism Queen of the year 日本代表受賞、2016年supermodel international 日本代表受賞(世界Top15以内)、2017年度ミス・インターナショナル準グランプリ受賞。現在も現役でコンテストに挑戦するかたわら、モデルとしても活躍中。



人の口に入ると喜びに変わり、栄養になって、みんなが幸せになる。ところが、一方は、見た目が汚い、中身も不衛生、食べたら病気になる、周りの環境もよくない。それが、同じ場に共存している。これは、人も一緒なのではないかと思ったんです。

中原 なるほど、場所は同じ、育て方が同じでも、結果は人によって違うと。

金ヶ江 そうなんです。うまくいかないときって、なかなか自分の現状を認めることができなくて、人のせいにしたくなるじゃないですか。事務所が悪い、自分のことをちゃんと評価してくれない、他の子ばかり最優にしているとか。でも、そうではないんですね。私は畑で、全部の作物を同じように育てていたんです。同じように肥料をやり、雑草を抜き、水を与え、日光も均等に浴びているのに、でも育ち方が違う。これは、個体の問題だなとわかるわけです。それで、わが身を振り返って、今の自分は美しいと言える大根か、それとも腐ってしまった大根かと考えたら、「腐っている…」と。

中原 そこで気づくわけですね。

金ヶ江 このままではいけないと、再起を図る決心をしたときに、もう一度ミスコンにチャレンジしたいと思ったんです。やはり、1回目の挑戦で挫折したことがその後の糸余曲折のきっかけになっていたので、この試練に立ち向かわなければならぬと強く感じました。

中原 1回目の挫折があったから、自分の傲慢さにも気づいて、そこから立ち上がって栄冠をつかむわけですね。村上さんはどうですか。

村上「私も世の中の役に立ちたいけど、それにはまず自分自身の知性とか、成長することだなって」

村上 私はもともと法律事務所に勤めていた普通のOLだったんです。小さいころの夢で、モデルさんになりたい

なという思いはありながら、どうせ自分にはできないとあきらめて、将来のこと何も考えずに毎日を何となく過ごしていたんですが、一時期、何もない田舎で過ごしたことがきっかけで、自然とか環境とか、この社会がすごく大事なものだと気付いて、私も何かしたいという衝動が強くなっていました。

中原 ミスコンということではなく。

村上 ミスコンなんて思いもよませんでした。何か世の中のために、自然のこととか、人のためになるようなことがしたいという思いが強くなって、ボランティアでもやろうかと本気で考えたり。でもそれは安直かなというのもあって、悶々としていたんですね。それで、当時、同じ法律事務所に勤めていて、実のお姉さんのように慕っていた女性に相談したら、悦子さんじゃないんですけど、「それなら一緒に農業をしましょう」ということになったんですね。

中原 また農業(笑)、流行っているんですか。

櫻井 流行っているらしいです。事務所の先輩で、農業にのめり込んで田舎に移り住んだ女優さんもいました。

金ヶ江 農作業していると無心になれるというのはあるかもしれません。修行みたいなもので、自分自身を見つめるためにいいのかも。

村上 私の場合は、そんなに深い考えはなくて、先輩に誘われるまま体験してみたというだけなんんですけど。でも、本当に自然の中で、土にまみれていると、本質が見えてくるんですよね。お野菜自身は、世の中のためになりたいと思っているわけではないでしょうけれど、一生懸命に育てて立派なお野菜になるとちゃんと世の中の役に立つわけじゃないですか。私も世の中の役に立ちたいけど、それにはまず自分自身の知性とか、成長することだなって。でもそのために何をしていいかわからなくて、先輩に相談したら、「ミスコンに出て自分を磨くという手もあるよ」と教えてくれたんです。

中原 先輩はなぜ村上さんにミスコンを勧めたのでしょうか。

村上 真意はわかりませんが、もともと他のミスコンテス

こかかわっていたことがある方だったので、その方面に識があったのだと思います。

原 なるほど、この子は磨けばミスになれる見抜いてたんですね。ということは、3人とも他薦ということですね。

ケ江 そうですね、たまたまですけど、ミスコンの存在本を知らない子も多いので、勧められて出るケースは多ようです。

スコンにおける美の基準とは？

原 一口にミスといっても、世界大会がいくつかありますね。

ケ江 もともとは、ミス・インターナショナル、ミス・ニバース、ミス・ワールドの世界3大ミスコン、そこにス・アースができて4大ミスコンになり、さらに、新し大会も続々出てきています。

原 それぞれに、選考基準の違いとか、傾向のようなのはあるのでしょうか。

ケ江 あります。それぞれに特徴があって、各コンテストの傾向を研究して、自分に向いているコンセプトの大に照準を絞って応募している方もいますね。



金ヶ江悦子
2010年度ミス・インターナショナル世界大会第4位、
ミスエレガント(特別賞)受賞
(©一般社団法人国際文化協会)

ETSUKO KANAGAE BEAUTY PROGRAM



ETSUKO KANAGAE BEAUTY PROGRAM

櫻井 ミス・インターナショナルの場合は日本発祥なものもあって、いわゆる日本人らしい黒髪に白い肌を重視する傾向があるのに対して、ミス・ユニバースは日本人でもアジアの括りになって、肌は小麦色で、化粧は濃い目がいいと言われます。実際、ミス・ユニバースに挑戦した友人は、白肌が自慢でしたが「焼かないとだめ」と言われて日焼けサロンに通っていました。

金ヶ江 麻衣ちゃんの綺麗な小麦肌は、もしかするとそのイメージに近いかな。

村上 そう、だから私、最初の挑戦はミス・ユニバースだったし、ミス・インターナショナルに応募するときも、「向いていない」と言っていたんですよ。でも、やってみたら、ミス・インターナショナルのほうが結果よかつたんですよね。

中原 最終的には世界大会での優勝が目標だとすると、世界大会の審査の傾向が皆さんを目指す美の基準になるのでしょうか。

櫻井 どちらかというとディレクター(ミスコン大会を取り仕切るプロデューサーのような存在)の考え方方が強い気がします。

金ヶ江 美の基準もあくまでコンセプトがベースになっているので、たとえばミス・インターナショナルだったら、社会貢献、文化交流、友好・親善という理念があるので、どちらかというと文系的なタイプの人が選ばれる傾向があって、黒髪に白肌がうけるのは確かです。でもそれでなくては駄目というわけではなく、一人ひとりの個性を見ますから、麻衣ちゃんみたいに小麦色の肌でも受け入れられることがあるわけです。

中原 美容整形やホワイトニングなど医学的にいじるのはOKなんですか。

櫻井 それもコンテストにより違うと思いますが、たとえばミス・ユニバースは、むしろ、ホワイトニングなどの歯のケアはやっておかないとだめだと言われます。整形についても特に規定はないようですし、それが理由で落選するということはないように思います。

村上 世界クラスになったら当たり前です。日本はまだそこまではいっていないかな。

金ヶ江 確かに、世界大会に行くと、隠さないし、海外の子は平気で、自分のバストを指して「It's not mine」なんて言う子もいますからね。



ミス・インターナショナル日本代表のレッスンの様子



セミナー

中原 隠さないんですね。

金ヶ江 それで自信を持って自分を表現することができて、周りの人にも嫌な気持ちをさせない、むしろ勇気を与える存在になれるのであれば、私はありだと思います。

村上「身長やスリーサイズも世界標準は日本人の感覚と少し違って、背が大きくてグラマーがやはり好まれます」

中原 日本人が考える日本的な美しさと、世界基準で見たときの日本的な美しさの違いみたいなものはどうですか。

村上 先ほどの、小麦色の肌が好まれるというのもそうだし、身長やスリーサイズも世界標準は日本人の感覚と少し違って、背が大きくてグラマーがやはり好まれます。私は日本人女性としては大きいほうで170センチあるんですけど、世界に出ると低い部類ですし、ヒップやバストサイズも日本人には不利ですね。

櫻井 日本大会に集まってくる子は細いほうがいいと思ってみんなダイエットに精をだしているのですけど、「世界

基準で戦っていくんだからもっと太りなさい」「もっと筋肉をつけなさい」ということはよく言われます。

中原 櫻井さんと金ヶ江さんは審査員の経験もあるので、審査する側の意見というのも聞いてみたいんですけど、スポーツの採点競技に見られるような、芸術点とか技術点といった明確な基準というのはあるのですか。

櫻井 審査の項目ごとに点数をつける方法でしたが、そのための明確な基準というのは特にないです。

櫻井「その人の生き方とか思いが如実に表れるのが姿勢。だから姿勢を見ます」

中原 すると何をもって、この人は1番、この人は2番と判断しているのでしょうか。

櫻井 審査員自身の主観ですね。たとえば私の場合は、初めは姿勢を見ます。ステージ上に次から次へ同じ衣装の女性が登場し、それを遠目から審査するので、目鼻立ちとかスタイルだけでは優劣をつけられません。見た目のきれいさではなく内面から出るもののが大事だけれど、スピーチをするまでそれは見えにくい。その中でも、その人

の生き方とか思いが如実に表れるのが姿勢だというのが私の考えです。姿勢の良さはオーラとなり、ステージ上でひときわ輝く存在感を放ちます。でも、これはあくまで私の基準であって、人それぞれに選んでいるポイントはあると思います。

金ヶ江「エネルギーが漲るような輝くものを持っている人を見ると素敵な人だなと思います」

中原 なるほど、櫻井さんの中では明確な判断基準があると、金ヶ江さんはどうですか。

金ヶ江 私はやっぱりオーラですね。自分に自信があつて、輝いている人って、必ず活気というかエネルギーが漲っています。スタイルや顔立ちなどの見た目だけではなくなかなかわからない部分がありますが、ふとした瞬間にぱつと光るもののが伝わる瞬間があるんです。みんな、歩き方とかスピーチとか、練習してきたことを完璧にこなそうとしますが、実はその完璧さを見ているのではなくて、たとえば、ミスしてしまったときとか、ちょっとしたハプニングの瞬間に、その人の内面がでてくる。「素」が見える瞬間ですね。そこに漲るエネルギーのようなものが見えたなら、「素敵な方だな」と思います。

中原 一人ひとりの審査員が自分なりの基準を持っているけど、結局それは主観ということは、そのときの審査員の人選によってもかなり左右されませんか。

櫻井 それは大いにあると思います。

金ヶ江 審査員も含めてだと思いますが、そのときのタイミングとか、あと運もあります。

中原 努力しないともちろん駄目だけど、それだけではないということですね。

金ヶ江 私もそうでしたが、1回目の挑戦では落選し、次の年はグランプリをいただきました。それはもちろん、自分自身の変化もあるかもしれません、審査員も違えば会場も違う、一緒にステージに立っているメンバーも違う。それは、努力ではどうにもならない部分なので、したがって、努力、運、タイミング、この3つがそろわないと優勝はできないというのが私の考え方です。

中原 めぐりあわせみたいな要素も大きいわけですね。

櫻井 それはすごくあると思います。私のときは日本大会の予選が終わって、さあいよいよ本選だと思ったら、大学の卒業制作審査会の日程ともろに被ってしまったんです。審査会は2日間あるので、最初の時点で確立は五分五分。両方いけるかもしれないけれど、もし同じ日に当たってしまったら大学を取るしかないので、そのときになって断られても大会事務局にとっては迷惑な話です。半面で、いま辞退すれば迷惑はかかるんだろうけど、結局、日程がずれて両方行けたはずということになったら私はきっと

後悔するんです。

金ヶ江 せっかく予選大会を勝ち上がったのに、中途半端な幕切れになるのは嫌ですよね。それは究極の決断！

櫻井 でも結局、自分ではどうしても決められなくて、事務局に相談したんです。「今、辞退しないと迷惑になりますよね」と恐る恐る聞いたたら、「万が一重なつてしまったら、そのときに考えればいいよ」と言ってくれたので、ぐらぐら揺れていた心がようやく定まって、大会に出ようと決心が固まり、そうしたら、卒業制作審査の日程がずれて大会とは別日になったので、何の憂いもなく本選に集中できただというわけです。

中原 道が開けるときってそうなんですね。

櫻井 本当に運だったと思います。仮にあのとき、大学の審査会と大会の日程が重なっていたら、大学か大会か、どちらかを断念するしかなかったわけですから、どっちを選んでも後悔しただろうし、満足な結果にはならなかつた気がします。

中原 そこで運命の歯車が回り始めたんでしょうね。さきほども、金ヶ江さんの話をうかがっていて思ったのが、1回目の挑戦で挫折して、2回目に挑んだとき、表面的にはもちろん何も変わらないんだけど、精神的なところで転換したところからすべてがいい流れになって、結果、落選から一転グランプリという大逆転になっているわけですね。

金ヶ江 それは私もすごく感じました。コンテストに出る前から、どこかコンテストに対してネガティブなところがあったように思いますし、何かあると他人のせいにするようなところもありましたね。それが落選して初めて、他責ではなく自責などと自分自身に意識が向いて、そこからすべてが変わっていったような気がします。

ミスコンで1位になるのと2位以下ではどう違う？

中原 優勝するか、そうでないかというのは実はほんのちょっとした差なんでしょうけど、でも、結果によってはその後の人生がすごく大きく変わってしまいますよね。ある意味残酷な世界です。そこで、村上さんにおうかがいしたいことがあります。ちょっと辛い質問かもしませんが。

村上 大丈夫です。なんでも聞いてください。

中原 実は、今回、3人ともグランプリを呼ばずに、あえて準ミスという立場で村上さんをお招きしたのは、そこがうかがいたかったんです。先ほど来、話してきたように、優勝するかそうでないかはめぐりあわせもあります。おそらく、少しボタンの掛け違いがあれば村上さんがグランプリでもおかしくなかったはずです。しかし、現実は2位ということで、原因はほんの偶然かもしれないのに、結果は大きく違ったものになったと思います。

村上 本当に、辛いです。準優勝ですから、喜んでいい

はずなんでしょうけれど、いつか機会があったら本にしたいぐらい、複雑な思いがあります。

村上「1位以外は2位でも5位でも一緒。準優勝と言っても、本当に何もない」

中原 1位と2位の違いってどうですか。

村上 私、実は、先ほどの4大ミスコンではない、新興のミスコンでは日本代表になって、世界大会も2度経験しているんですね。そういう意味では、1位と2位を両方経験しているんですけど、本当に大きく違って、優勝すると1

年間「ミス○○」として活動するわけですが、それ以外は2位でも5位でも一緒です。準優勝と言えば聞こえはよくても、本当に何もない。

中原 本大会まで皆さん1年以上かけて準備するわけでしょう。同じように努力してきたのに結果によって天国と地獄ぐらいの差になってしまふんですね。

村上 ただ、いま冷静になって考えると、私も努力したのは確かですけど、やっている子は1年どころではなく何年もかけて準備しているし、実際、グランプリになった子がそうで、ミスコン修行のためだけにフィリピンまで行って特訓していたそうです。



櫻井麻美

左：ミス・インターナショナル日本大会 1位優勝
上：ミス・インターナショナル世界大会ドレス審査
(©一般社団法人国際文化協会)

● 櫻井麻美 近況



オフィスでできる簡単エクササイズの撮影風景(ヘルスケアコンテンツ用VTR)



京都美山ワンデーマーチ ウォーキング指導



某銀行主催顧客セミナー

中原 すごい執念ですね。

村上 それに比べて自分の無力さというか、圧倒的に事前準備が足りていなかったことを痛感しましたし、やはり彼女が優勝すべきだったんだと思います。そういう意味で、いまは結果に納得しているし、すごく悲しかったけれど、勉強にもなりました。だからこそ2位のショックから立ち直って、準ミスでいられるこの1年という限られた時間をどう使おうかと、そして、その後の人生にどう生きるべきかということをすごく考えました。

中原 2位になったことで、逆に成長されたんですね。一方、グランプリになられた櫻井さんと金ヶ江さんは、その後の人生がどう変化していったかですが。

櫻井 村上さんが言うように、グランプリになると1年間、「日本代表」としての活動があって、さらに、次のステップとして世界大会がありますので、世界一を目指して駆け抜ける1年なんですね。この期間はとても充実していて、

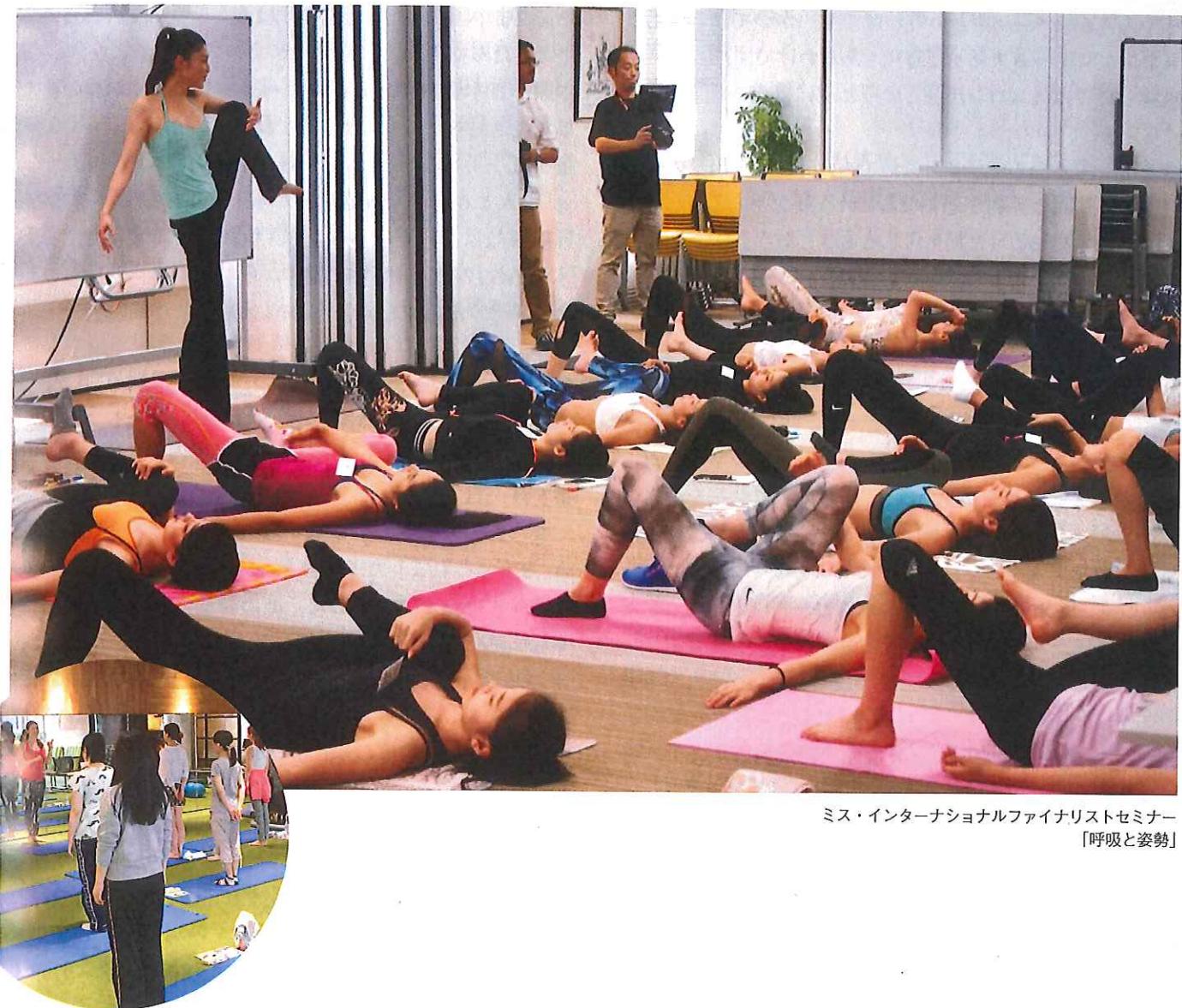
ものすごい変化を経験するわけですから、さてそれが終わって世界4位になりましたと、すると、急にやることがなくなるんです。

櫻井 「世界を目指して駆け抜ける1年が終わると、やることがなくなり何をしたらいいいのか見失った」

中原 燃え尽き症候群みたいなものでしょうか。

櫻井 そうですね。特に私の場合、大学は卒業しましたけど、日本代表になった時点で留学の計画は白紙になり、目指してきた映像作家になる道を断ち切って世界大会にかけていたので、大会が終わってしまったら、次に何をしたらいいかがわからなくなって、そこからの1年間が地獄のようでしたね。

中原 一般人から見ると、ミスコンで結果を出せば引く手



ミス・インターナショナルファイナリストセミナー
「呼吸と姿勢」

あまたで、その後の人生が保証されているような印象もありますが。

金ヶ江 国によって違いますね。世界大会に出場すると、ワールドカップやオリンピックみたいに、国民みんながテレビにかじりついて応援するような国もあれば、まったく無関心な国もあります。

櫻井 世界大会に優勝して凱旋帰国したときに大統領が迎えにきたという子もいました。

金ヶ江 国の英雄として祝福されることもあれば、ミスコンに否定的な国もあって、色眼鏡で見られてしまうこともあります。

中原 日本の反応はどうですか。

金ヶ江 応援してくださる方もいますが、批判的な人が多いのも事実ですね。ミスコン自体があまりよく思われていなくて、そこに出場してきたというと、むしろ避けられてしまうこともあったり…。

金ヶ江「グランプリを獲ったのに、日本では『だから何なの?』と言われることも」

櫻井 悅ちゃんもそうだと思いますが、芸能界で仕事をしていると、「ミス」の肩書がかえって足かせになってしまふことがあります。

金ヶ江 そうそう。反応は「だから何なの?」という感じです。だから、せっかく成績を残したのにあえて隠している人もいるほどです。

中原 話をうかがっていると、ただきれいというだけでなく大変な努力をして、人生のいろいろなものを犠牲にして、そうして栄光を勝ち取ったのに、意外に世の中の待遇がよくないです。

金ヶ江 時代の変化もありますね。私たちの大先輩、数十年前、ミスコンに出場された方の話を聞くと、「私たちのときはミスコンに出ただけで、縁談の申し出がたくさん

きて、いいところにお嫁に行けるというのがあって、応募をする人が多かった」というわけです。かつては日本もミスコンがステータスだった時代もあるわけです。

櫻井 いまはミスコン出身というと逆に警戒されてしまうぐらいです。

金ヶ江 そうなんですよ。男性でも、ミスコン出身の子に近づくと世間の評判が悪くなるという懸念があるらしくて、近づかないでおこうと捉えられることがあるくらいです。

村上 何も悪いことしていないのに、何か悲しいです。

今後のミスコンの位置づけはどうあるべきか？

中原 象徴的なことで言うと、この間、稻田朋美（元）防衛大臣が、海外で自分を紹介するとき、冗談のつもりだったんでしょうけど「Good looking」と言って非難を受けましたよね。アメリカのトランプ大統領も、フランスのマロン大統領夫人を「美しい」「スタイルがいい」と褒めたらバッシングされました。美を語ることが差別と捉えられてしまう風潮があって、ミスコンにも否定的な意見が根強い中で、ミスコンの位置づけとは今後どうあるべきとお考えですか。

櫻井 美女の品評会のような偏見を持たれている方が多いからだと思うんです。実際には、外見的な美しさというのは一部でしかなくて、人としての姿勢、考え方、生き方が問われるわけで、だからスピーチが一番重要なんです。

中原 人としていかに美しく生きているかですよね。

櫻井 ミス・インターナショナルの場合はとくに、国際交流を通して世の中をよくしていくということを理念にしていて、実際に私たちが世界に出ていくことで、海外の人々が日本人に持っている偏見を払拭できたりという側面もあるんです。

金ヶ江 それで言うと、私が世界大会に参加したときが、たまたま中国開催だったんですけど、反日デモの真っただ中だったんですよ。

中原 日本資本のスーパーマーケットとか日本製の自動車が焼き討ちにあったときですね。

金ヶ江 そうです、まさにあの最中です。行く前から、「日本人とわかったら危ないから、日本語はしゃべるな、日本製品は身に着けるな」と言われたんですけど、私は「JAPAN」のタスキかけてますからね。

櫻井 そうだ、隠しようがない（笑）。

金ヶ江「反日デモ渦巻く中国で、現地の人からかけられた温かい声に感動」

金ヶ江 日本の知人からは、「どうせこの時期に行つたって賞なんか取れるわけがないし、危険だしやめておいたら」とも言われました。だけど、そんな時期だからこそ行く意味があると感じました。あの時期に政治家が訪中しても反感を煽ってしまうだけだったかもしれないけど、世界共通の「美」という概念を通して、向こうの人たちと会話できるんじゃないかな、そこで生まれる「笑顔」が日本と中国の懸け橋になるんじゃないかなと思ったんです。で、実際、勇気をもって接してみたら、他の国の参加者や、現地の中国の方たちも「JAPAN頑張れ」「私たちはJAPANの味方だよ」と温かく迎えてくださって、大変な1カ月でしたけど、たくさんの「絆」が生まれ頑張れた気がします。

中原 すごい外交成果ですよね。

金ヶ江 やっぱり行ってよかったと、ミス・インターナショナルの「国際交流」って、単なるスローガンではなく、そこには心からの国際交流の場があり、これこそ私たちの持っている使命の一つなんだと実感しました。

櫻井「海外で起こっていることが自分事のように感じられたら、戦争さえもなくせる」

櫻井 やはり、世界各国から集まってきたミスと1カ月間共同生活をするので、みんな友達になるじゃないですか。



すると、大会に行くまでは世界のどこかで事件や災害があつても「大変そうだな」ぐらいにしか思わなかつたのが、世界大会で一緒になつたあの子が住んでいる国だと思つたら、急に、世界で起つるあらゆる出来事が自分事に思えるようになつたんです。そう考へると、世界の人がみんなこういう交流ができたら、戦争さえもなくなるのではないかと思えるんです。

中原 そんな強い絆が生まれるんですね。

金ヶ江 みんなライバルだけど、真剣にやるからこそ、お互いの気持ちもわかるし通じ合えるんです。私のときも、大会の翌年に東北の地震が起きたら、ステージで一緒に競つた世界のミスから「PRAY FOR JAPAN」っていうメールをたくさんもらいました。私も、彼女たちに何か困つたことがあつたら応援したいと思いますし、本当に強いつながらができる、またとない機会だと思います。

中原 とても素晴らしい経験なんですね。

金ヶ江 本当に素晴らしい大会です。

村上「私がミスとして海外に行くことで、日本の本当の姿を伝えられる。それがミスコンの意義」

中原 村上さんはどうですか。

村上 本当に、「美の親善大使」と言われるとおりで、参加者どうしでディスカッションをよくするんですね。アフリカの子とかは話がすごく上手で、難民の状況とかチャリティ活動の実際の話をしてくると、それがニュースで見るような表面的なことではなく、現地の人しか知らないような実情が本当によく伝わるんです。同じように、私がミスとして海外に行くことで、日本の本当の姿を伝えられるし、それがミスコンの意義だと思います。

ミスコンを経て今後、どのような方面に進んでいこうとしていますか

中原 最後に、ミス・インターナショナルの経験を経て、今後みなさんそれぞれ、どのような道に進まれるのかをうかがいたいと思います。櫻井さんは、何でも改めて大学に行かれているそうですが。

櫻井 はい、大学院ですが。

中原 しかも、医系だとうかがっています。

櫻井 世界大会が終わってから、何をやつたらいいかわからない時期が続いていたんですけど、それでもモデルや女優の仕事を細々と続けていたとき、たまたま骨盤矯正に出会つたんです。

中原 それは、仕事で？

櫻井 仕事です。骨盤矯正をテーマとした本の撮影だつ

たんです。実際に骨盤矯正ストレッチをしながら撮影したので、すべてのメソッドを一通り経験したわけです。そうしたら、驚いたことに、ずっと悩んでいたO脚とか、生理不順がよくなつてしまつたんです。

金ヶ江 それはすごい、本当に治っちゃつたんだ。

櫻井 これはすごいと感動して、そこから一気にのめり込んで、身体のこと、姿勢のこと、いろいろ勉強したわけです。すると、今まで美を追求する中で、健康を損ねてしまつていた部分があつたなどわかり、結果、美と健康というテーマに行きついたわけです。それで、事務所にも「脱女優」宣言して、本格的に骨盤矯正ストレッチの先生に弟子入りして資格を取つて、ストレッチを教えたり施術をしたり、美と健康をテーマに雑誌やテレビに呼ばれたりという仕事をやり始めたんです。

櫻井「美と健康をテーマに医学の道に」

中原 もう、実際に、仕事になつてゐるんですね。なのになどうして大学にまた行かれているんですか。

櫻井 そこで足かせになつたのが、実は「元ミス」という肩書なんです。私がいくら、「こうやってストレッチすれば、スタイルよくなりますよ」と言つても、「元ミス」とわかると、「あなたは元々スタイルいいんでしょ」と言われたり、あるいは、「元ミスの看板でお気楽に商売している」というふうに見られてしまう。かなり真剣に取り組んでいるのに、どうしてもそういう偏見がついてまわるんです。

村上 わかります。すごく努力しているのに、「あなたとは元が違う」と決めつけられてしまうんですよね。

櫻井 そうなんです。私はもともと太りやすい体質で、ミス・インターナショナル日本代表になつて全国を回つているとき、毎日の接待で相当な食事量をとつたことに加え、自由時間がないので運動の時間が取れずで、最初の1、2カ月で8キロ増えてしまつたんですね。

中原 ミス日本代表なのに、困りますよね。

櫻井 そう、事務局の方からも瘦せろと言われました。でも、毎日相変わらず忙しくてまとまつたトレーニングの時間も取れないし、出張先や仕事先ではほぼ接待なのでダイエット食を用意するのも難しい。そうした中で太らないように工夫して生まれたメソッドもあるんです。でも、それを伝えて、「あなたは元々スタイルいいじゃない」と、信じてもらえない。それが悔しくて、どうにかできないかと考えて、医学博士になつたらさすがに信じてくれるんじゃないかなと。

中原 なるほど。それは確かに。

金ヶ江 そのうち、櫻井さんが白衣を着て、医学博士としてテレビのコメンテーターとして活躍している姿が見える！

村上 素敵。白衣の櫻井さん。

金ヶ江「美と教育で新たな価値を生み出す」

中原 金ヶ江さんは教育の方面に力を入れると聞きましたが。

金ヶ江 そうですね、美と教育で新たな価値を生み出すというのが私のいまのテーマです。ミスコンのトレーナーとして人を指導していて思うのは、外見だけを磨いて、歩き方やメイクといった技術を身に着けてもだめなんです。前提として外見も重要だけど、中身がないと本当の輝きは得られません。では、中身はどうやって磨くかというと教育だと。

正解不正解を求める教育ではなく、それぞれの持つ個性や強みを磨き、表現できるようになること。周りがやっているから自分もやるのではなく、世界に一つしかない自分の「美」を自らが自信を持って表現できるように、教育の専門家と一緒に内面と外面を両方磨くカリキュラム開発しています。そして「人が自分らしく心豊かに輝ける社会を目指す」という想いのもと、ミスコンだけではなく、全国の企業研修や地域活性の事業としても提供しています。

中原 村上さんはまだ現役ですから、これからも挑戦していくんですね。

村上 来年、再チャレンジするかどうか、正直、まだ決めていないんですけど、いまは、なんといっても準ミス・インターナショナルとしての仕事が残っていますので、まずはそこに全力で打ち込んでいます。そのあとは、はつき

り決まっていませんが、来月、沖縄で農業をまたやる予定なんですね。

中原 本格的に農業の道に進まれるんですか。

村上「医療や薬に頼らない生き方がいまのテーマ」

村上 農業を仕事にするつもりはなくて、ただ、いま私の知りたいもの、これ大事だなと思うものが、そこにあるんですよ。なぜわざわざ沖縄まで行って農業なのかというと、地場の珍しい葉草を使った伝統料理があるらしいのですが、それがもう途絶えそうだと聞いたんですね。そこで、栽培の仕方、料理の仕方を教えてもらって、次世代に伝えていくのが目的なんです。私の中ではいま、医療や薬に頼らない生き方というのがテーマで、そういう方面で何かできたらいいなと思って、どういう仕事になるかわかりませんが、取り組んでいるところです。

中原 これは偶然ですけど、いま気づいたんですが、医療、教育、食とそろいましたね。

櫻井 ああ、本当に、そうだ、すごいですね。

金ヶ江 何でもとことん追求すると、本質に近づいていくのかな。いつかはみんなの強みを合わせて世の中のために活動できる場を作りたいですね！

中原 これは、みなさんのこれから活躍がますます楽しみになりました。

